



卒業式におけるマスク着用の考え方

卒業式におけるマスク着用の文部科学省の考え方は、「児童生徒と教職員はマスクを着用せず出席することを基本とし、来賓や保護者等に対しては着用を求める」という方針です。しかし、熊本市教育委員会は、「卒業生については、卒業式が学校から単立つ行事であることを鑑み、熊本市の教育理念のもとこれまで培ってきた『自ら考え主体的に行動できる力』を発揮する集大成の場として、学校の指示を待つことなく、自ら考え主体的に行動すること。」と示しています。



そこで、本校としましては、主役の卒業生と教職員は、「自分で考えてマスクの着脱を行う。」とします。ただし、在校生(5年生)、保護者、来賓の方々には、マスクの着用を求めたいと思います。その理由として、体育館では、適切な距離が担保できず、その中で歌を歌ったりセリフを言ったりするからです。

まだまだコロナの感染は、予断を許さない状況にはありますので、効果的な実施や、参加者への咳エチケットの推奨、手の消毒や手洗い等の手指衛生など、必要な感染症対策を講じながら、思い出に残る卒業式にしたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、ご理解とご協力をお願いします。

●ひこうきぐも✈ vol.18

前回失敗してしまったコペンハーゲン(それなりに楽しい都市ではありましたが)から、今度こそベルリンへと向かいました。例の如く、ベルリンへは夜行寝台(宿代節約のため)で行った訳ですが、駅の構内で夜行寝台を待つ間、パトロール中の警官が何人もいて、治安の悪さを感じました。これはコペンハーゲンだけでなく、他のヨーロッパ各都市でも見られることでした。

寝台列車は2等のクシェットと呼ばれるもので、1つのコンパートメントに3段ベッド(カーテン無し)が2組置いてあり、6人すし詰め状態です。しかも6人単位で1つの部屋に押し込んでいくので、乗客無しのガラガラ状態のコンパートメントもあるという訳です。しかしこういう中で、見ず知らずの人との交流ができたり、旅の情報交換ができたりと私にとっては、大切な時間でした。

そうこうするうちに、ベルリンに着きました。最初に降り立ったのが、旧東地区でした。この地域にはスプレー落書きがやたら多くて、ひどいときには列車のシートにまで落書きがしてありました。

西と東を分け隔てていた、ベルリンの壁に行ったのですが、そのときの壁は、既にきれいに取り除かれていました。途中、地図を広げながら道を尋ねてきた二人組みの女の子がいました。そのうちの一人の手が、広げられた地図の下から巧みに、私のポケットの中の財布の位置をさぐっているのです。大声をあげて、難は逃れましたが、周囲の反応も冷ややかで、女の子たちも悪びれる風ではないのです。歯がゆい気持ちを押しさえながら、その場から歩いて旧西地区の方へ行くと、旧東地区にはないような華やかなデパート、高層マンション、賑やかな街の通り、ショッピング街、・・・etc.このときはまだ、西と東を分け隔てている、見えないベルリンの壁が存在しているような気がしました。私が行った当時のベルリンは、まだまだ迷える都市であったように思えました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。

ベルリンの壁跡にて

